



港区みどりの街づくり賞とは **Green**

港区では、昭和54年度から建築計画に伴う緑化計画書の提出を義務付け、緑化の指導を行ってきました。緑豊かな都市づくりには、公共の緑とともに、民間施設の緑化が重要な役割を果たしています。

「港区みどりの街づくり賞」は、優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者の皆さんを表彰し、地域緑化への協力に感謝を示すとともに、さらなる民間緑化の発展を願って、平成16年度に創設をしました。

概要

表彰の対象となる施設

原則として、前々年度に完了した建築計画に伴う緑化施設で、港区みどりを守る条例施行規則の緑化基準を満たしているもの。

選定基準

学識経験者、都市緑化に造詣の深い区民及び環境リサイクル支援部長で組織する選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。

- ① 周辺の景観と調和し、優れたデザインであること。
- ② 維持管理が適切に行われていること。
- ③ 自然環境の保護と再生に努めていること。
- ④ 建築物と植栽地がバランスよく配置されていること。
- ⑤ 既存樹木を活用していること。
- ⑥ あらゆる生きものが、相互に関わり合いながら生きられる生物多様性に配慮した植栽計画となっていること。
- ⑦ 在来植物を取り入れていること。
- ⑧ 地域社会とのつながりを持ち、地区への貢献度及びみどりの公開性が高いこと。
- ⑨ 先進的又は総合的にレベルの高い緑化技術を取り入れ、新しい緑の創出に創意工夫がなされていること。

賞の種類

みどりの街づくり賞 5点

詳細は毎年度選定審査会で決めています。

お問い合わせ

港区環境リサイクル支援部 環境課
港区芝公園1-5-25 / 電話:03-3578-2330

港区景観街づくり賞とは **Land scape**

港区では、平成21年度に「港区景観条例」を施行し、景観行政団体となって、景観法に基づく取り組みを始めました。そして、良好な景観形成を図るべく「港区景観計画」を策定し、同計画の景観形成基準に沿うよう、建築物の建築などに対する指導・助言を行っています。

「港区景観街づくり賞」は、良好な景観形成に功績のあった優れた民間の施設や活動を表彰することで、広く景観に対する意識の向上を図るとともに、魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に創設しました。

概要

審査

港区景観審議会委員等で組織する選定審査会が受賞施設等の選定を行います。

景観街づくり賞・景観街づくり賞 奨励賞

表彰の対象となる施設

表彰を行う年度の前々年度に、港区景観条例に基づく完了報告書が区に提出された民間施設のうち、特に良好な景観の形成に功績のあったもの

選定基準

- ① 周囲からの見え方に配慮があり、周辺の街並みと調和しているもの
- ② 建築物、植栽等がバランスよく配置されており、憩いと安らぎを創出しているもの
- ③ 地域特性を生かしており、まちの魅力の向上に貢献しているもの
- ④ 地域社会とのつながりを持ち、区民等への貢献が高いもの
- ⑤ 都市景観の創造に先導的な役割を果たしているもの

賞の種類

1. 景観街づくり賞・・・特に優れていると認める施設
2. 景観街づくり賞奨励賞・・・より一層の良好な景観形成を期待する施設

景観街づくり賞特別賞

港区景観条例による届出対象以外の、良好な景観形成に功績のあった施設や活動に対し、感謝の意を込めて表彰します。

お問い合わせ

港区街づくり支援部 都市計画課
港区芝公園1-5-25 / 電話:03-3578-2204

Minato City

港区

みどりの街づくり賞 景観街づくり賞

平成28年度 受賞施設



みどりの街づくり賞 受賞施設 景観街づくり賞 受賞施設

オアーゼ芝浦



- 建築主：株式会社丸仁ホールディングス
- 設計者：
設計監理：清水建設株式会社一級建築士事務所
デザイン監修：株式会社 南條設計室
CM業務：株式会社 久米設計
喫煙所デザイン：早稲田大学古谷誠章研究室
- 施工：清水建設株式会社
- 所在地：港区芝浦二丁目15番6号他
- 施設用途：
事務所、共同住宅、飲食店舗、物販店舗
- 敷地面積：2867.03㎡ (MJビル)
1233.13㎡ (レジデンス)
558.91㎡ (ネクサス)
- 高さ：44.57m (MJビル)
47.695m (レジデンス)
27.98m (ネクサス)
- 緑化面積：721.12㎡
- 接道部緑化延長：217.19m
- 緑化面積率：15%
- 接道部緑化率：69%

評価ポイント

【みどり】

・緊急避難テラスと3棟に囲まれた区道沿いに高木や壁面緑化など様々な植栽を施すことによるにぎわいある緑のネットワークの構築

【景観】

・三つの敷地で囲んだ区道側にセットバック、バルコニー、壁面緑化を集中させた、新しい空間の創出
・賑わいと憩い、ヒューマンスケールの都市的緑が点在するテラス空間の創出
・周辺地域となじみ、つながる景観と、同様な展開が面として広がっていくことへの期待



みどりの街づくり賞 審査委員コメント

●この構想は2011年の震災の経験をもとに練られたという。用途が異なる3棟のビル(中規模オフィス、小規模オフィス、賃貸集合住宅)が、3棟同時開発のメリットを活かしながら、同一の建主によって実施された。地域密着の防災へ本気の取り組みが窺われ、同時に防災施設が平時には憩いの場を提供することに成功している。ネーミングには、まさに地域のオアシス(オアーゼ)としてあってほしいという願いが込められている。



景観街づくり賞 審査委員コメント

●区道を囲んだ三つの敷地にオフィス棟と集合住宅を配置し、区道側にセットバック、バルコニー、壁面緑化などを集中させて新しい空間を創出した。三棟の建物は地上階に統一感をもった商店を配置し、その前にウッドデッキ、植栽、舗装変更をした区道と続く。自前のライフラインの設置など新しい試みを含めた開発で、かつて配送車が行き交った港湾地区の裏通りは、その姿を一変させた。

今回は大型プロジェクトが候補作に並んだため、受賞施設は中規模な印象となったが、その結果、このプロジェクトの汎用性の高さが一層際立った。水辺地区を中心に、同様な展開が面として広がっていくよう期待したい。

●近年高層集合住宅が急増している芝浦でひとつの会社が移転し、近接した3カ所の関連建物が事務所、集合住宅、店舗をもつ3棟の「オアーゼ芝浦」に生まれ変わった。3棟に囲まれた区道を一体整備し、各建物の1階に「おいしいパン屋さん」、「評判のレストラン」、「リーズナブルなマーケット」を誘致し、賑わいと憩い、ヒューマンスケールの都市的緑が点在するテラス空間を創出している。

あえて大規模開発を避け、地域コミュニティとともに災害に備えたオープンスペースを配し、周辺地域となじみ、つながる景観。近隣住民も在勤者も足を運びたくなる、これからの芝浦が見える色と香りをもった、身の丈にあった心地よい一帯が生まれた。





みどりの街づくり賞 受賞施設 景観街づくり賞 奨励賞 受賞施設

虎ノ門ヒルズ



- 建築主:【特定建築者】森ビル株式会社
- 設計者:設計・監理:株式会社日本設計
- 施工:株式会社大林組
- 所在地:東京都港区虎ノ門一丁目23番1号~4号
- 施設用途:
事務所、住宅、ホテル、カンファレンス、飲食店舗、物販店舗、駐車場 他
- 敷地面積:17,068.95㎡ ●高さ:247m
- 緑化面積:5,758㎡ ●接道部緑化延長:383.98 m
- 緑化面積率:34% ●接道部緑化率:78%

評価ポイント

- 【みどり】
 - ・人工地盤上に生物多様性の高い緑を実現し、港区のエコロジカルネットワーク形成にも貢献した緑地
- 【景観】
 - ・贅沢なまでのランドスケープと散策、寛ぎの場を生み出した計画
 - ・新虎通りのランドマークとなっている建築と緑の広場



みどりの街づくり賞 審査委員コメント

●都心地の人工地盤上に国立自然教育園などの武蔵野の自然植生を範として、可能な限り再現していることに賛辞を送りたい。今後これらの植生を入念かつ細心の育成・管理に努め、所期の目的を達成し、他の範となる緑空間を持続させてほしい。



景観街づくり賞 奨励賞 審査委員コメント

●地下を通る環状二号線との取り合いで建築的には難しい設計条件のもと、特に換気塔を意匠的・空間的にうまくまとめている。公開空地では、ステップガーデンやオーバル広場など、地盤の高低差を活かすとともに植栽をきめ細やかに配置して、贅沢なまでのランドスケープと散策、寛ぎの場を生み出している。超高層ビルの周囲にひとつのオアシスを生み出し得たといえるが、敷地のもつ内部完結的な印象がもっと和らげられれば、さらに高い評価を獲得したであろう。

●建築と緑の広場が新虎通りのランドマークとなっている。超高層の足元に生まれたオープンスペースで、人々が寛ぎ、広場ではイベントが行われ、活気と潤いのある屋外空間である。地域の地形や水系をイメージさせる流れや滝、それらを豊かな緑が繋ぎ、地域の植生を活かし、多様な草本類も植栽され、都心部での生物多様性への取り組みが見える。建物の高さボリュームに匹敵する緑と環境への配慮は賞の評価に値する。





みどりの街づくり賞 受賞施設 景観街づくり賞 奨励賞 受賞施設

品川シーズンテラス



- 建築主: NTT都市開発株式会社、大成建設株式会社、ヒューリック株式会社、東京都市開発株式会社、(東京都下水道局)
- 設計者: 株式会社NTTファシリティーズ、大成建設株式会社一級建築士事務所、NTT都市開発株式会社一級建築士事務所、日本水工設計株式会社
- 施工: 大成建設株式会社東京支店
- 所在地: 港区港南一丁目2番70号
- 施設用途: 事務所、飲食店舗、物販店舗、集会場、診療所、駐車場、(下水処理施設)
- 敷地面積: 49,547.86㎡ ● 高さ: 151.27m
- 緑化面積: 32,959.12㎡ ● 接道部緑化延長: 392.85 m
- 緑化面積率: 67% ● 接道部緑化率: 83%

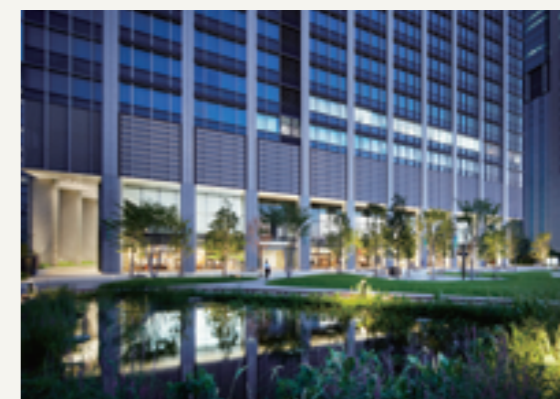
評価ポイント

- 【みどり】**
- ・台地と臨海の境界にある立地を活かし、自然生態系の中継点として機能しうる植栽計画
- 【景観】**
- ・人工地盤に高層ビルと緑地が展開し、未来都市を思わせる計画
 - ・区民の新たなコミュニティの拠り所となる、涼風を呼び込む樹林や水景施設



みどりの街づくり賞 審査委員コメント

● 施工前に行った景観事前協議の段階では、品川駅からのアクセス接道部に賑わいが足りないためではないかとアドバイザー委員から声が上がったが、現在の利用状況は委員らの予想を超えて、人々が多く行きかい、イベント広場側は移動カフェ車等も設置されるなど、新たな集いのスポットとなっていることが一番の魅力。借景となる芝浦中央公園、風の森と相まって都心の新たなオアシスでできたことはこの地区の財産となるだろう。



景観街づくり賞 奨励賞 審査委員コメント

● 水再生センター上の人工地盤に高層ビルと緑地が展開し、未来都市を思わせる。隣の区営公園と合わせた緑地は広大で、都心とは思えない見事な眺望を生んでいる。高層ビルはオーソドックスで、ランドマーク性に欠けるとの声もあったが、隣接する緑地との調和を優先させてビルの配置は敷地の南端。奇をてらう演出も避けている。

現地はJR新駅予定地の前。付近一帯で景観形成と街づくりが進行中で、港区の景観行政の試金石になるだろう。

● 官民の連携による新事業である。建物の北側広場は公園と一体となり、芝生が広がる解放感のある広大な空間である。涼風を呼び込む樹林や水景施設は区民の新たなコミュニティの拠り所となり、親子や友人達の姿は実に楽しそうである。東京タワーを望むプロムナードはここ唯一の景観で思い出のシーンとなるだろう。エコ広場の環境可視化の仕掛けは多様で一般の人にも解りやすく、都市環境負荷の軽減建築モデルにもなる。



Apple表参道

- 建築主:MD表参道特定目的会社
- 設計者:Bohlin Cywinski Jackson 光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所
- 施工:株式会社 竹中工務店 ●所在地:港区北青山三丁目5番(渋谷区神宮前四丁目2番10号)
- 施設用途:物販、カスタマーサービス店舗 ●敷地面積:868.01㎡ ●高さ:10.487m



評価ポイント

- ・表参道のケヤキの高さを一番に考慮した、画期的な計画
- ・建物そのものがサインとなり、景観にアクセントと魅力を与えている好例



景観街づくり賞奨励賞審査委員コメント

●表参道はケヤキも大きく育てて気持ちよく歩ける並木道としては東京で一二を争う場所でしょう。また、そんなケヤキの高さを一番に考慮した計画として画期的でしょう。ケヤキを映しこんだり、森の中の休憩室のように、様々な方向から楽しめる空間になっていて、外と内が融合してしまったような錯覚におそわれます。周囲に溶け込み、しかし軽快な構造で最先端の技術を感じさせており、「自然と人工の融合」という、日本文化の伝統的考え方の具現化といえます。

●世界中の人々を魅了する表参道と住民になじみの原二本通りの角地に建つApple表参道は高さ約10mの一層のガラスの箱で、遠景、近景いずれも目を引き、誰もがドキドキしながら入ってみたいくなる。
トーマイでカコヤカで構造体が見えないデザインは建物らしくなく、周辺に溶け込みながらもスマートに主張している。おそらくガラスにくもりひとつ着けないであろう。建物そのものがサインとなって景観にアクセントと魅力を与えている好例。

ザ・パークハウス西麻布レジデンス

- 建築主:三菱地所レジデンス株式会社 セコムホームライフ株式会社 CapitaLand Azabu West 特定目的会社
- 設計者:株式会社三菱地所設計 ●施工:戸田建設株式会社
- 所在地:港区西麻布四丁目5番2号
- 施設用途:共同住宅、物販店舗
- 敷地面積:2960.71㎡ ●高さ:86.55m

評価ポイント

- ・両道の高低差を木立を配した坂道として結ぶ、歩いて心地よい貫通路の創出
- ・四方から見える色彩や素材、植栽の多様性による圧迫感の低減



景観街づくり賞奨励賞審査委員コメント

●ファサードやヴォリューム構成で建物の量感軽減にも努めているが、真価は、歩いて心地よい貫通路の創出にある。この地域で、外苑西通りとその西側を並行する区道との連絡路が質的に不十分だと判断し、両道の高低差を、木立を配した円弧状の、緩くゆったりとした坂道として結んでいる。建物のエントランスラウンジと貫通路とはガラス・水盤・植込みを介して繋がられ、貫通路はラウンジの借景となり、ラウンジは貫通路に人の気配や窓明かりをもたらすに至っている。

●微妙な高低差のある西麻布付近の地形を楽しめるような空間となっています。公園と参道をつなぐ道ができ、人の行き来が増えたように感じます。敷地全体のオープンさと住民の為の堅固な安全性の両立を目指した回答の一つといえましょう。四方から見える色彩や素材、植栽の多様性が、圧迫感の低減に効果をあげているようです。躯体そのものが外装になるようにコンクリートに骨材を入れ見えるように削るという工夫なども質感の良さを感じさせます。

平成28年度 景観街づくり賞 特別賞 受賞団体 港区アドプト・プログラム - 道路・公園のボランティア活動 -

問い合わせ

港区アドプト・プログラムとは

港区アドプト・プログラムは、地域の方々が道路・公園の維持管理(清掃や花壇管理等)を自主的に行う活動のことです。区民等が相互に協力し、地域の共有財産である道路・公園等の緑化活動や清掃等を行うことにより、道路・公園等への愛着心を深め、利用者のマナー向上と清潔で快適な街づくりの推進を目的として、平成14年度から実施しています。

活動継続5年を経過した団体



今年度の受賞団体

今年度の受賞団体は、港区アドプト・プログラムで活動継続5年を経過した団体です。地域の皆さんが主体となり、継続的に清掃・修景活動を行うことで、身近な景観街づくりに大きく貢献していただいています。区から感謝の意を込めて、特別賞として表彰します。



平成28年度港区景観街づくり賞特別賞受賞 アドプト登録団体 活動継続5年を経過(H27年度末時点)した団体一覧

実施団体	場所種別	活動内容	実施団体	場所種別	活動内容
あさのみ	公園	花壇管理	海岸2・3丁目町会	道路	花壇管理
株式会社ノバック東京支店	道路	清掃	レインボーガーデニングクラブ	公園	花壇管理
SMBCコンシューマーファイナンス株式会社新橋お客様サービスプラザ	公園	花壇管理	NECフィールディング株式会社	道路	清掃

アドプト・プログラムについて

各地区総合支所協働推進課 土木係
芝地区 TEL 3578-3131
麻布地区 TEL 5114-8803
赤坂地区 TEL 5413-7015
高輪地区 TEL 5421-7615
芝浦港南地区 TEL 6400-0032



審査員総評 みどりの街づくり賞によせて



千葉大学名誉教授 赤坂 信

今回、選定された3件は全く性格の異なる緑地である。敷地面積だけでいえば、それぞれ17,000㎡強、4,700㎡弱、50,000㎡弱とさまざまだが、最初の物件は地下に環状第2号線本線を内包する超高層ビルプロジェクトで生まれた緑地で、斜行するトンネル(環状2号線)を覆う人工地盤がそれである。そこには都心にこそ、公開された生物多様性に富む森の風景を導入すべきだという主張が窺われる。次の物件はそれぞれ用途が異なる3棟のビル(中規模オフィス、小規模オフィス、賃貸集合住宅)が、2011年の震災後に3棟同時に同一の建主によって開発された。地域密着の防災への取り組みと防災施設が平時には憩いの場を提供する手法は特筆すべきものだ。最後の物件は最大の敷地面積を活かした壮大な空間利用が特徴だろう。南に建築を寄せ、西側の既存の芝中央公園と連担した大空間を「風の森」としているが、都心のクールアイランドとして真に機能すれば、地域に貢献すること大だろう。3件いずれも公共性に富み、みどりの街づくりに貢献すると判断した。



港区景観アドバイザー 株式会社 佐藤尚巳建築研究所 代表取締役 佐藤 尚巳

今年の審査は、事前選考段階で103の対象作品から5作品に絞られていた。力作が非常に少ないという事実は、緑化に消極的な事業者が多いということなのか。観光客が増え国際化した東京。製品、技術、文化、食事は高い評価であるが、都市環境としてはアジアの主要都市と比較すると地盤沈下は否めない。環境の魅力向上は東京の価値向上であり同時に資産価値の向上でもある。緑化による環境価値向上に積極的な事業者が増えて貰いたいものである。

今回も事前に全作品を現場審査をしていたので、各作品について委員から感想やコメントを出し合い、その後採点に入った。結果は上位3作品とその他の作品の差が大きく、一度の投票で受賞作品が決まった。

虎ノ門ヒルズは、周辺街路に対する多彩な緑の構成が街ゆく人々に安らぎを与え、斜路で道路から連続する屋上広場も深く豊かな緑の環境が整備され憩いの場を提供していた。

オアゼ芝浦は、3棟の別々の建物を同時に建替えた計画で、道を挟んで店を配置し緑陰を提供することで、工場街を生き生きとした街に作り替えた。

品川シーズンテラスは、浄水場の屋上緑化と一体に計画されたので、広大な緑の広場を出現させた。屋上広場の周辺街路からの孤立感が感じられ残念ではあった。



港区景観アドバイザー 日本大学短期大学部 准教授 有限会社 GAヤマザキ 代表取締役 山崎 誠子

港区の景観アドバイザーとして、月に1回、これから開発予定の物件や、景観重点地区に建設される建物を緑の視点で毎回8~10件くらい診ています。アドバイザーで見る物件の数から推察すると、港区では様々な建物、外構、緑地が毎月建設されていることがわかります。緑化義務があるものは、アドバイスをする物件の半分ぐらいで、それ以外は義務ではないので緑化する必要がなく、緑化していないというものです。義務がないから緑地をとらない、緑化をしないというのは、なんとも味気ないもので、この建物にもっと魅力を作ることができるのに、街に潤いを、人にやすらぎを与えるいい機会で、この計画者、施主はとてもいい人、会社なんじゃないかと言われるチャンスを見すみずみ失っているのではないのでしょうか。今回の受賞作や、過去の受賞作にはいろいろな緑化のヒントがあります。ぜひこれらを参考に緑が魅力的な建物、街づくりをしてください。



公益社団法人 観音崎自然博物館 理事 高橋 雅雄

港区のみどりの街づくりの観点からみると、武蔵野台地の自然植生中心の緑地から人為の加わった完成度の高い緑空間まで、多様にして多量の緑が豊かである。しかしながら、これらの緑が後世にまで安泰でいられる保証がすべてにあるわけではない。

都心地で高層ビル化の勢いは依然として留まるところを知らない。今まで見えていた大木の樹幹のおだやか曲線も見えなくなっている。緑地の所有権の公私の別はあるにしても、将来に亘って密度の濃い緑の存続の保証を可能にする方策をつくり出すことはできないものか。大都市の過大・過密の弊害を学んだのは半世紀以上昔のことだが、後世の人たちに新鮮な空地と水と緑を届けるのは現代のわれわれの責務ではないだろうか。



Land scape 審査員総評 景観街づくり賞によせて

港区景観審議会会長 東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授 齋藤 潮

「景観向上への努力に敬意を表します」

港区景観条例に基づく完了報告書が提出され、かつ今年度の前々年度に竣工した民間施設は84件でした。このうち、良好な景観形成に功績ありとして景観アドバイザーが選出した6件が選定審査会に委ねられました。これには、3棟一体の事業からアドバイザーが2棟を個別選出して2件としたものが含まれていましたが、7月1日の現地視察などを経て3棟一体の景観創出として扱すべきものとされ、審査対象は都合5件となりました。次いで、8月2日の選定審査会にて投票と意見交換を行なったところ、3棟一体で優れた景観的効果を上げているとしてオアゼ芝浦の評価が抜き目出て高く、景観街づくり賞授賞を決定。残る4件については、審査員によって評価が分かれるものの、一定の景観的貢献を認めたいとして景観街づくり賞奨励賞授賞を決定しました。受賞者諸氏のご努力に敬意を表します。



港区景観審議会副会長 (株)日本カラーデザイン研究所 景観事業部担当部長 杉山 朗子

「すぐれた景観は、気持ちよく使えて過ごさせてこそ」

東京の中心部のビル街の中で、自然と人工の融合やパブリックに使える緩やかな空間の形成が着々と進んでいるように感じました。今回は特に東京の様々な動きを代表するような地点での好事例が挙げられたと思います。人工地盤の地域、時間を経て豊かに茂った並木道、倉庫街、ビジネスの中心街などそれぞれですが、周辺との高さやサイズの調和、外壁や足元まで行き届いた色や素材の工夫、新しい憩いを楽しめる空間の形成など、共通して、近隣の住民やワーカーなどに「気持ちよく使って、過ごしてもらえ」という公共への心遣いを感じさせる計画だったのではないのでしょうか。このような、「人と建物と植物等の自然」が、気持ちよく寄り添えるように感じられる計画が規模の大小にかかわらず増えてくると、港区の「景観」が、もっと素敵なものとなることでしょう。



港区景観審議会区民委員 岡元 隆治

「都市景観は、息を呑む眺望より、一息つける心地よさ」

大自然の景観と都市の景観は違う。人は、都市に大自然の美しさを求めてはいない。求めているのは、安らぎや落ち着き。息を呑む眺望より、一息つける心地よさだ。

心地よい街の条件は、まず治安と清潔。後は、ホスピタリティだ。語感としては、もてなしよりは、親切だろうか。誰でも嫌な思いをした街に、いい記憶はない。親切な街づくりをしているだろうか?と思いつつ、今回の審査を行った。

候補作はどれもレベルが高かったが、受賞は高度成長時代の面影が残る芝浦地区の施設となった。効率第一の時代から安らぎの時代へ、その変遷を象徴する街づくりだった。同様な試みが水辺地区へ広がっていく、そんな期待が、受賞の追い風になった。



港区景観アドバイザー 株式会社戸田芳樹風景計画 取締役 設計室長 大橋 尚美

「景観まちづくりの主役は人の笑顔です」

今年の賞の候補は実に多様なものでした。どの作品もこの街だからこそその建築、環境、景観づくりがなされています。今回は景観づくりの中でも、特に賑わいとコミュニティに注目しました。景観に配慮した心地良い施設や魅力的なデザインの空間には多くの人々が集り、そこに賑わいとコミュニティが生まれます。でも物質的環境はあくまでも景観づくりの舞台背景で、そこでの人の活動こそが景観の主役です。新たな道沿いに生まれたお店でコーヒーを飲み、語らう人とその前を歩く人、見る、見られる関係があることが街の魅力です。景観の主役が笑顔でいる風景が愛すべき街の景観なのだと思います。今年の候補作品も、人が笑顔で集える暖かみで人間味ある舞台背景になっていたと思います。



港区景観アドバイザー 藤野アトリエ一級建築士事務所 主宰 藤野 珠枝

「建物を育てる意識が優れた景観を生む」

「港区らしい景観」とは多くの人は「高級」「高層」「大規模」と答えるのでしょうか。前々年度に竣工し完了報告された建物から選定される景観街づくり賞の候補建物は時勢をよく表していると思います。東京オリンピックに向けた建設ラッシュと都心回帰の人口増で勢いが増す大規模高層マンションへの建替えが進む現在の港区では、確かに上記の言葉が似合うのかもしれませんが。

大規模開発になると動く金額も大きく、エクステリアをも立派につくることがやりやすくなるでしょうが、景観的に優れた建物とは、けっして規模の大きさやお金のかけ方だけでつくられるものではなく、地域とのつながり、周辺への配慮、未来を見据えたデザインなど、関わる方々の「この地に建物を育てる意識」の高さで生まれると、今回初めて審査に関わらせていただき、感じました。

